

1

2つの関数  $f(x) = x^3 - 6x^2 + 9x$ ,  
 $g(x) = x^3 - 3x^2 + 3x - 1$  について、次の問いに答えよ。

- (1) 関数  $f(x)$  および  $g(x)$  の増減を調べ、 $y = f(x)$  および  $y = g(x)$  のグラフをかけ。
- (2) 2つの曲線  $y = f(x)$ ,  $y = g(x)$  で囲まれた図形の面積を求めよ。 【2026 名古屋市立大学】

解説

(1)  $f(x) = x^3 - 6x^2 + 9x$  より、

$$f'(x) = 3x^2 - 12x + 9 = 3(x^2 - 4x + 3) = 3(x-1)(x-3).$$

$x$	...	1	...	3	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	4	↘	0	↗

$g(x) = x^3 - 3x^2 + 3x - 1$  より、

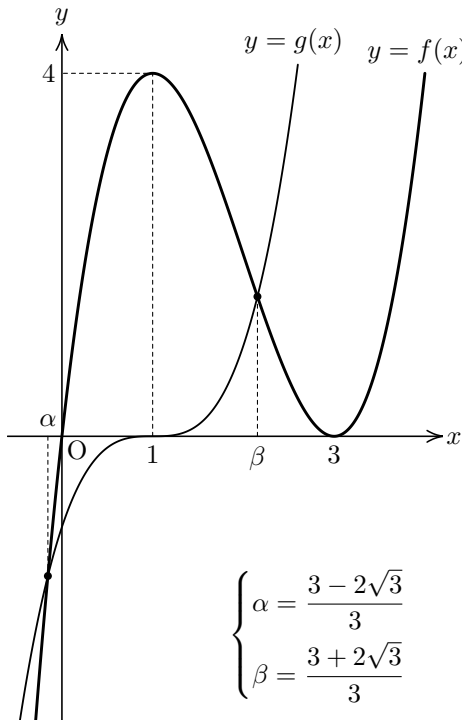
$$g'(x) = 3x^2 - 6x + 3 = 3(x^2 - 2x + 1) = 3(x-1)^2.$$

$x$	...	1	...
$g'(x)$	+	0	+
$g(x)$	↗	0	↗

$$g(x) - f(x) = 3x^2 - 6x - 1$$

であり、

$$g(x) - f(x) = 0 \iff x = \frac{3 \pm 2\sqrt{3}}{3}.$$



$$\begin{cases} \alpha = \frac{3 - 2\sqrt{3}}{3} \\ \beta = \frac{3 + 2\sqrt{3}}{3} \end{cases}$$

(2) 求める面積を  $S$  とすると、 $S$  は放物線

$$y = g(x) - f(x) = 3x^2 - 6x - 1 = 3(x - \alpha)(x - \beta)$$

と  $x$  軸とで囲まれる領域の面積と等しく、

$$\begin{aligned} S &= \int_{\alpha}^{\beta} -3(x - \alpha)(x - \beta) dx \quad \text{1/6 公式} \\ &= (-3) \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) (\beta - \alpha)^3 \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{4}{3}\sqrt{3}\right)^3 = \frac{32}{9}\sqrt{3}. \end{aligned}$$

注意  $g(x) = (x-1)^3$  である。

参考 1/6 公式については、本編の p.32 を参照せよ。

2

初項 1、公差 7 の等差数列  $\{a_n\}$  について、初項から第 300 項のうち、9 と 11 両方で割り切れる  $a_n$  をすべて求めよ。 【2026 鳥取大学】

解説 等差数列  $\{a_n\}$  の一般項  $a_n$  は

$$a_n = 1 + 7(n-1) = 7n - 6.$$

300 以下の自然数  $n$  で  $7n - 6$  が 9 でも 11 でも割り切れる、すなわち、99 で割り切れるものを考えよう。

$m$  を整数として、不定方程式

$$7n - 6 = 99m \quad \dots (*)$$

を解く。  $(n, m) = (15, 1)$  は (\*) を満たすことに着目すると、

$$(*) \iff 7(n - 15) = 99(m - 1).$$

これより、(\*) の整数解は、 $k$  を整数として、

$$\begin{cases} n - 15 = 99k, \\ m - 1 = 7k \end{cases} \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} n = 99k + 15, \\ m = 7k + 1 \end{cases}$$

と表せる。このうち  $n$  が 300 以下の自然数となるのは、 $k$  が

$$1 \leq 99k + 15 \leq 300$$

を満たす整数のとき、すなわち、

$$k = 0, 1, 2$$

のときであり、求める  $a_n$  は、

$$\begin{aligned} a_{15} &= 7 \cdot 15 - 6 = \mathbf{99}, \\ a_{114} &= 7 \cdot 114 - 6 = \mathbf{792}, \\ a_{213} &= 7 \cdot 213 - 6 = \mathbf{1485}. \end{aligned}$$

参考 1次不定方程式については、本編の p.32, p.39, p.99 を参照せよ。

3

4点  $O(0, 0, 0)$ ,  $A(2, 1, 0)$ ,  $B(\sqrt{5}, 0, \sqrt{11})$ ,  $C(0, 0, 12\sqrt{5})$  がある。点  $C$  から平面  $OAB$  に垂線を下ろし、交点を  $H$  とする。  $\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OB} = \vec{b}$  とおくと、次の問に答えよ。

- (1)  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角を求め、三角形  $OAB$  の面積を求めよ。
- (2)  $\vec{OH}$  を  $s\vec{a} + t\vec{b}$  と表すとき、実数  $s, t$  の値を求めよ。さらに、点  $H$  の座標を求めよ。
- (3) 線分  $CH$  の長さを求め、四面体  $OABC$  の体積を求めよ。 【2026 佐賀大学】

解説  $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\vec{b} = \begin{pmatrix} \sqrt{5} \\ 0 \\ \sqrt{11} \end{pmatrix}$ .

(1)  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角を  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とおくと、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta.$$

ここで、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 2 \cdot \sqrt{5} + 1 \cdot 0 + 0 \cdot \sqrt{11} = 2\sqrt{5},$$

$$|\vec{a}| = \sqrt{2^2 + 1^2 + 0^2} = \sqrt{5},$$

$$|\vec{b}| = \sqrt{(\sqrt{5})^2 + 0^2 + (\sqrt{11})^2} = 4$$

であるから、

$$\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{5} \cdot 4} = \frac{1}{2}.$$

$$\therefore \theta = \frac{\pi}{3}.$$

これより、

$$\Delta OAB = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{5} \cdot 4 \cdot \sin \frac{\pi}{3} = \sqrt{15}.$$

(2)  $\vec{CH} = s\vec{a} + t\vec{b} - \vec{c}$  であり、 $\vec{CH} \perp \vec{a}$  かつ  $\vec{CH} \perp \vec{b}$  により、

$$\begin{cases} 0 = \vec{CH} \cdot \vec{a} = s|\vec{a}|^2 + t\vec{a} \cdot \vec{b} - \vec{a} \cdot \vec{c} \\ \quad = 5s + 2\sqrt{5}t, \\ 0 = \vec{CH} \cdot \vec{b} = s\vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 - \vec{b} \cdot \vec{c} \\ \quad = 2\sqrt{5}s + 16t - 12\sqrt{55} \end{cases}$$

$$\therefore s = -2\sqrt{11}, \quad t = \sqrt{55}.$$

これより、

$$\vec{OH} = -2\sqrt{11}\vec{a} + \sqrt{55}\vec{b} = (\sqrt{11}, -2\sqrt{11}, 11\sqrt{5})$$

であり、

$$\mathbf{H}(\sqrt{11}, -2\sqrt{11}, 11\sqrt{5}).$$

(3) (2) より、 $\vec{CH} = \begin{pmatrix} \sqrt{11} \\ -2\sqrt{11} \\ -\sqrt{5} \end{pmatrix}$  であるから、

$$|\vec{CH}| = 2\sqrt{15}.$$

したがって、四面体  $OABC$  の体積は

$$\frac{\Delta OAB \times CH}{3} = \frac{\sqrt{15} \times 2\sqrt{15}}{3} = 10.$$

4

$x$  についての多項式  $P(x) = x^2 + ax + b$  がある。ただし、 $a \neq 0, b \neq 0$  とする。 $P(x^2)$  を  $a, b, x$  の式で表し、 $P(x^2)$  を  $P(x)$  で割ったときの商  $Q(x)$  と余り  $R(x)$  を求めよ。また、 $P(x^2)$  が  $P(x)$  で割り切れるとき、定数  $a, b$  の値を求めよ。【2026 長崎大学】

解説  $P(x) = x^2 + ax + b$  より、

$$P(x^2) = x^4 + ax^2 + b$$

であり、これを  $P(x)$  で割ると、筆算を実行して、

$$\text{商 } Q(x) = x^2 - ax + (a^2 + a - b),$$

余り  $R(x) = -a(a^2 + a - 2b)x - b(a^2 + a - b - 1)$ .

また、 $P(x^2)$  が  $P(x)$  で割り切れる条件は、 $R(x)$  が  $0 \cdot x + 0$  となること、すなわち、

$$\begin{cases} -a(a^2 + a - 2b) = 0, \\ -b(a^2 + a - b - 1) = 0. \end{cases}$$

$a \neq 0, b \neq 0$  より、

$$\begin{cases} a^2 + a - 2b = 0, & \dots \textcircled{1} \\ a^2 + a - b - 1 = 0. & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

① - ② により、

$$-b + 1 = 0.$$

$$\therefore b = 1.$$

これを ① に代入し、

$$a^2 + a - 2 = 0.$$

$$(a + 2)(a - 1) = 0.$$

$$\therefore a = -2, 1.$$

したがって、求める  $a, b$  は、

$$(a, b) = (-2, 1), (1, 1).$$

5

1個のさいころを3回投げる。出た目の最小値を  $M$  とする。

- (1)  $M$  が3以上になる確率を求めよ。
- (2)  $M$  が3になる確率を求めよ。
- (3) 最初に出た目を  $X$  とする。  $M$  が3であったときに、  $X$  が6である条件付き確率を求めよ。

【2026 琉球大学】

解説

- (1)  $M \geq 3$  となるのは、3回とも3以上の目が出る場合であるので、

$$P(M \geq 3) = \left(\frac{4}{6}\right)^3 = \left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{8}{27}.$$

- (2)  $M = 3$  となるのは、  $M \geq 3$  の場合から  $M \geq 4$  の場合を除外して捉えることができ、

$$\begin{aligned} P(M = 3) &= P(M \geq 3) - P(M \geq 4) \\ &= \left(\frac{4}{6}\right)^3 - \left(\frac{3}{6}\right)^3 \\ &= \frac{4^3 - 3^3}{6^3} = \frac{37}{216}. \end{aligned}$$

- (3)  $M = 3$  という事象を  $E$ 、  $X = 6$  という事象を  $F$  とすると、求める条件付き確率は  $P_E(F)$  であり、

$$P_E(F) = \frac{P(E \cap F)}{P(E)}.$$

$P(E)$  は (2) で求めた  $\frac{37}{216}$  であり、  $E \cap F$  が起こるのは次の7通りあることから、

$$P(E \cap F) = \frac{7}{6^3} = \frac{7}{216}.$$

1回目	2回目	3回目
6	3	3
6	3	4, 5, 6
6	4, 5, 6	3

ゆえに、

$$P_E(F) = \frac{P(E \cap F)}{P(E)} = \frac{\frac{7}{216}}{\frac{37}{216}} = \frac{7}{37}.$$

6

座標平面上の円  $x^2 + y^2 = 1$  を  $C_1$  とする。

- (1) 点  $(3, 4)$  を中心とする円  $C_2$  と、  $C_1$  が外接するとき、  $C_2$  の方程式を求めよ。
- (2)  $a$  を定数とし、円  $(x - a)^2 + (y - a)^2 = 9$  を  $C_3$  とする。  $C_3$  が  $C_1$  と共有点をもたないとき、  $a$  のとりうる値の範囲を求めよ。
- (3)  $r$  を正の定数とし、円  $(x - 1)^2 + y^2 = r^2$  を  $C_4$  とする。  $C_1$  と  $C_4$  が2つの交点  $A, B$  をもち、線分  $AB$  の長さが  $\sqrt{3}$  となるときの、  $r$  の値を求めよ。

【2026 秋田大学】

解説

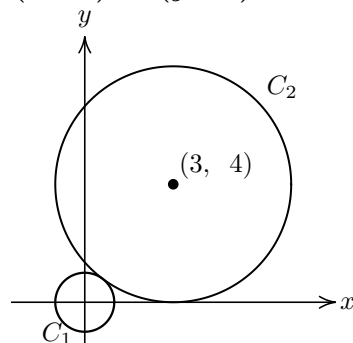
- (1)  $C_2$  の半径を  $R$  とする。  $C_1$  と  $C_2$  が外接する条件は、

$$\underbrace{\sqrt{3^2 + 4^2}}_{\text{中心間距離}} = \underbrace{1 + R}_{\text{半径の和}}.$$

$$\therefore R = 4.$$

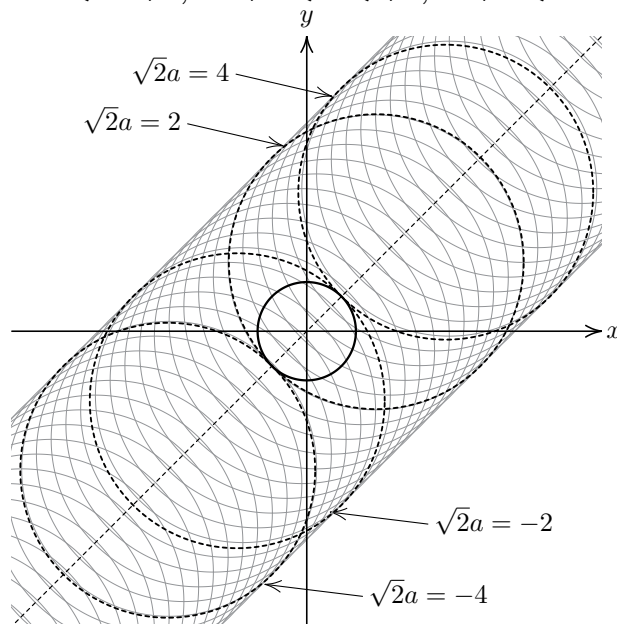
これより、  $C_2$  の方程式は

$$(x - 3)^2 + (y - 4)^2 = 4^2.$$



- (2) 次図により、求める  $a$  の値の範囲は、

$$a < -2\sqrt{2}, \quad -\sqrt{2} < a < \sqrt{2}, \quad 2\sqrt{2} < a.$$



**参考** 数式による解法では次のようになる。  
 $C_3$  が  $C_1$  と共有点をもたない条件は、連立方程式

$$(*) \begin{cases} x^2 + y^2 = 1, \\ x^2 - 2ax + y^2 - 2ay + 2a^2 = 9 \end{cases}$$

が実数解をもたないことである。

$$(*) \iff \begin{cases} x^2 + y^2 = 1, \\ ax + ay + (4 - a^2) = 0. \end{cases}$$

$a = 0$  のとき、 $C_1$  と  $C_3$  は同心円で、半径が異なるので共有点をもたない。

$a \neq 0$  のとき、条件は、円  $C_1$  と直線

$$ax + ay + (4 - a^2) = 0$$

が共有点をもたないことであり、

$$\frac{|4 - a^2|}{\sqrt{a^2 + a^2}} > 1.$$

$$0 < a^2 < 2, \quad 8 < a^2.$$

以上により、求める  $a$  の値の範囲は、

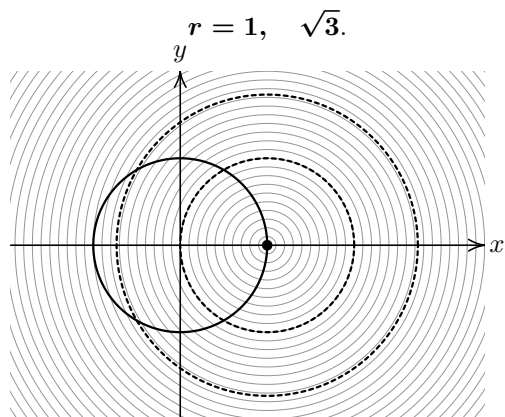
$$a < -2\sqrt{2}, \quad -\sqrt{2} < a < \sqrt{2}, \quad 2\sqrt{2} < a.$$

(3)  $C_1, C_4$  はともに  $x$  軸に関して対称な円であるので、2 交点 A, B は  $x$  軸対称な位置にある  $C_1$  上の点であるので、2 交点は

$$\left(\pm\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}\right), \left(\pm\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2}\right) \quad (\text{複号同順})$$

である。

$\left(\frac{1}{2}, \pm\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  が  $C_4$  上にあるのは  $r = 1$  のときであり、 $\left(-\frac{1}{2}, \pm\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  が  $C_4$  上にあるのは  $r = \sqrt{3}$  のときである。ゆえに、求める  $r$  の値は



7

$12^{39}$  について、次の問いに答えよ。ただし、 $\log_{10} 2 = 0.3010, \log_{10} 3 = 0.4771$  とする。

- (1) 桁数を求めよ。
- (2) 最高位の数字を求めよ。
- (3) 最高位の次の位の数字を求めよ。

【2026 早稲田大学】

**解説**  $12 = 10^{\log_{10} 12}$  であり、

$$\begin{aligned} \log_{10} 12 &= \log_{10} (2^2 \cdot 3) = 2\log_{10} 2 + \log_{10} 3 \\ &= 2 \times 0.3010 + 0.4771 = 1.0791 \end{aligned}$$

であるから、

$$12 = 10^{1.0791}.$$

(1)

$$\begin{aligned} 12^{39} &= (10^{1.0791})^{39} = 10^{1.0791 \times 39} \\ &= 10^{42.0849} = 10^{0.0849} \times 10^{42} \end{aligned}$$

の桁数は

**43.**

(2)  $2 = 10^{\log_{10} 2} = 10^{0.3010}$  より、

$$1 = 10^0 < 10^{0.0849} < 10^{0.3010} = 2$$

であるから、

$$1 \times 10^{42} < 12^{39} = 10^{0.0849} \times 10^{42} < 2 \times 10^{42}$$

より、 $12^{39}$  の最高位の数字は

**1.**

(3)

$$\begin{aligned} \log_{10} 1.2 &= \log_{10} 12 - \log_{10} 10 \\ &= 1.0791 - 1 = 0.0791 \end{aligned}$$

により、 $1.2 = 10^{0.0791}$  であり、

$$\begin{aligned} \log_{10} 1.25 &= \log_{10} \frac{5}{4} = \log_{10} \frac{10}{8} \\ &= \log_{10} 10 - \log_{10} 8 = 1 - 3\log_{10} 2 \\ &= 1 - 3 \times 0.3010 = 0.0970 \end{aligned}$$

により、 $1.25 = 10^{0.0970}$  であることから、

$$1.2 < 10^{0.0849} < 1.25$$

の成立がわかる。この辺々に  $10^{42}$  をかけ、

$$1.2 \times 10^{42} < 12^{39} < 1.25 \times 10^{42}$$

が得られ、これより、 $12^{39}$  の最高位の次の位の数字は

**2**

とわかる。

8

関数

$$f(x) = \frac{\sin 2x}{2} + \frac{\sqrt{2}}{2}(\sin x - \cos x) \quad (0 \leq x \leq 2\pi)$$

を考える.

- (1)  $t = \sin x - \cos x$  とおく.  $0 \leq x \leq 2\pi$  のとき,  $t$  のとり得る値の範囲を求めよ.
- (2)  $f(x)$  を  $t$  を用いた式で表せ.
- (3)  $f(x)$  の最大値と最小値を求めよ. また, そのときの  $x$  の値を求めよ. 【2026 山口大学】

解説

(1)

合成の原理は加法定理

$$\begin{aligned} t &= \sin x - \cos x \\ &= \sqrt{2} \left( \sin x \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} - \cos x \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \right) \\ &= \sqrt{2} \left( \sin x \cos \frac{\pi}{4} - \cos x \sin \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \sqrt{2} \sin \left( x - \frac{\pi}{4} \right). \end{aligned}$$

実数  $x$  が  $0 \leq x \leq 2\pi$  を動くとき,  $x - \frac{\pi}{4}$  は

$$-\frac{\pi}{4} \leq x - \frac{\pi}{4} \leq \frac{7\pi}{4}$$

をとり得るので,  $\sin \left( x - \frac{\pi}{4} \right)$  は  $-1$  以上  $1$  以下の実数をとり得る. したがって,  $t$  のとり得る値の範囲は

$$-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}.$$

(2)

$$\begin{aligned} t^2 &= (\sin x - \cos x)^2 \\ &= \sin^2 x + \cos^2 x - 2 \sin x \cos x \\ &= 1 - \sin 2x \end{aligned}$$

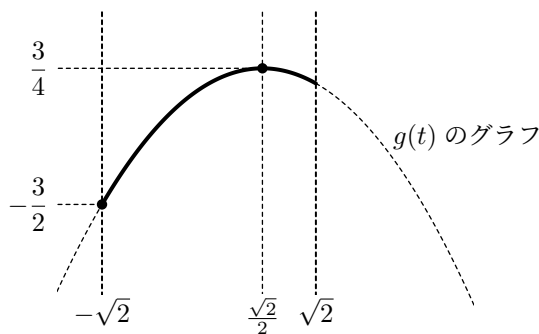
より,

$$\sin 2x = 1 - t^2.$$

$$\therefore f(x) = \frac{1-t^2}{2} + \frac{\sqrt{2}}{2}t = \frac{-t^2 + \sqrt{2}t + 1}{2}.$$

(3)  $g(t) = \frac{-t^2 + \sqrt{2}t + 1}{2}$  とおくと,

$$f(x) = g(t) = -\frac{1}{2} \left( t - \frac{\sqrt{2}}{2} \right)^2 + \frac{3}{4}.$$



これより,  $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$  において,

$$t = \frac{\sqrt{2}}{2} \text{ で } g(t) \text{ は最大値 } \frac{3}{4} \text{ をとり,}$$

$$t = -\sqrt{2} \text{ で } g(t) \text{ は最小値 } -\frac{3}{2} \text{ をとる.}$$

ここで,  $t = \frac{\sqrt{2}}{2}$  となる  $x$  は

$$\sin \left( x - \frac{\pi}{4} \right) = \frac{1}{2}$$

より,

$$x - \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{6}, \frac{5\pi}{6}.$$

$$x = \frac{5}{12}\pi, \frac{13}{12}\pi.$$

また,  $t = -\sqrt{2}$  となる  $x$  は

$$\sin \left( x - \frac{\pi}{4} \right) = -1$$

より,

$$x - \frac{\pi}{4} = \frac{3\pi}{2}.$$

$$x = \frac{7}{4}\pi.$$

したがって,  $f(x)$  の

$$\text{最大値は } \frac{3}{4} \quad \left( x = \frac{5}{12}\pi, \frac{13}{12}\pi \right),$$

$$\text{最小値は } -\frac{3}{2} \quad \left( x = \frac{7}{4}\pi \right).$$

補足

(1) は,  $xy$  平面上で単位円と直線  $t = y - x$  が共有点をもつような実数  $t$  の値の範囲を求めることで解くこともできる. 実際,

$$\frac{|t|}{\sqrt{2}} \leq 1$$

より,

$$-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$$

が得られる.

9

四角形 ABCD は、

$$AB = 7, BC = 3, CD = 5, DA = 7, \angle BAD = 60^\circ$$

を満たしている. AC と BD の交点を E とし、E を通り AB と平行な直線と直線 DC の交点を F とする. また、 $\triangle ABC$  の外接円に F から 2 本の接線を引き、それらの接点をそれぞれ G、H とする.

- (1) D は  $\triangle ABC$  の外接円上にあることを示せ.  
 (2)  $FE = FG = FH$  を示せ. 【2026 宮崎大学】

**解説**

- (1) 三角形 ABD は、 $AB = AD$  を満たすことから二等辺三角形であり、さらに、 $\angle BAD = 60^\circ$  であることから正三角形である.

また、三角形 BCD で余弦定理から、

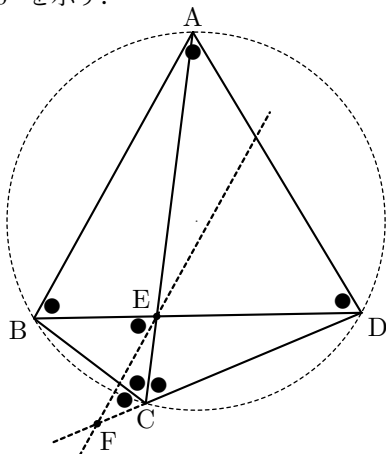
$$\cos \angle BCD = \frac{3^2 + 5^2 - 7^2}{2 \cdot 3 \cdot 5} = -\frac{1}{2}$$

より、 $\angle BCD = 120^\circ$  であることがわかり、

$$\angle BAD + \angle BCD = 60^\circ + 120^\circ = 180^\circ$$

が成り立つので、4 点 A、B、C、D は同一円周上にある. これより、D は  $\triangle ABC$  の外接円上にあることが示された. (証明終り)

- (2) 図の●印は  $60^\circ$  を示す.



ここで、 $\angle BEF = \angle BCF$  であることに着目すると、四角形 BFCE は円に内接する四角形であることがわかり、円周角の定理から、

$$\angle BFE = \angle BCE = 60^\circ.$$

これより、三角形 BFE は正三角形である.

さらに、

$$\angle FBD = \angle DAB$$

であることから、接弦定理の逆により、B における三角形 ABD の外接円の接線が BF である.

これより、 $FE = FG = FH$  が従う. (証明終り)

**参考** 3 辺の長さが 8, 7, 5 である三角形、3 辺の長さが 8, 7, 3 である三角形ではともに 7 の長さの辺の対角は  $60^\circ$  である. また、3 辺の長さが 7, 5, 3 である三角形では 7 の長さの辺の対角は  $120^\circ$  である.

$$\begin{cases} \text{花子 (8, 7, 5),} \\ \text{花見 (8, 7, 3)} \end{cases} \rightarrow 7 \text{ の対角が } 60^\circ$$

$$\text{七五三 (7, 5, 3)} \rightarrow 7 \text{ の対角が } 120^\circ$$

また、次のトレミーの定理により、

$$AC = BC + CD = 3 + 5 = 8$$

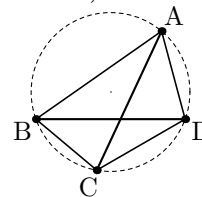
であることがわかる.

**Ptolemy(トレミー) の定理**

円 K に内接する四角形 ABCD において、

$$\underbrace{AC \cdot DB}_{\text{対角線の積}} = \underbrace{AB \cdot DC}_{\text{対辺の積}} + \underbrace{AD \cdot BC}_{\text{対辺の積}}$$

「対辺の積」の和



が成り立つ.

**補足** 問われてはいないが、線分 CE の長さをすぐに求めることはできるだろうか?  $\angle BCD = 120^\circ$  であり、CE は  $\angle ABD$  の二等分線になっており、

$$\angle BCE = 60^\circ = \angle DCE$$

に着目すると、面積を利用することで CE の長さを間接的に求めることができる. 実際、 $CE = x$  とおくと、

$$\triangle BCD = \triangle BCE + \triangle ECD$$

により、

$$\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 5 \cdot \sin 120^\circ = \frac{1}{2} \cdot x \cdot (3 + 5) \cdot \sin 60^\circ.$$

これより、

$$x = \frac{3 \cdot 5}{3 + 5} = \frac{15}{8}$$

とわかる.